

地下鉄東西線が開業

沿線各地で記念イベント開催

平成18年度より本体工事を進めてきた地下鉄東西線が、12月6日、開業しました。

これに先立ち、12月5日に仙台国際センター展示棟で開業記念式典を開催。式典では、着工から完成までの建設事業経過が報告されたほか、工事に携わった事業者への感謝状の贈呈、土井亨国土交通副大臣らによる祝辞、仙台フィル

ハーモニ管弦楽団のメンバーによるミニコンサートが行われ、関係者の皆さんで開業の喜びを分かち合いました。

そして開業当日の6日、東西の始発駅である荒井駅と八木山動物公園駅では、第一便に合わせて出発式が行われました。奥山市長は「東日本大震災を乗り越えて工事が完成しました。仙台の街をけん



荒井駅でのテープカット



八木山動物公園駅構内は、早朝から一番列車の利用客であふれ返りました



荒井のまち開きイベント「あらフェス」。地元アイドルや人気芸人が登場して会場を盛り上げました

復興へ駆ける

目指せ！日本一起業しやすいまち・仙台

仙台市長 奥山恵美子



東日本大震災は多くの被害をもたらしましたが、一方、復興の過程で、新たな志を胸に活動を始める人々が登場したことは、次の時代への希望の灯火です。今、新たに仕事を起こす「起業」に取り組む人たちが増えていきます。平成22年度は21件だった開業支援実績は、平成25年は30件に増加。湧き出る意欲をさらに後押ししようと、平成26年1月末、仙台市産業振興事業団の中に、起業支援センター「アシスタ」を開設しました。女性の相談員を配置するなど工夫を重ねた結果、平成26年度の開業相談件数は1036件と対前年比275%の伸び。年間59件の開業実績へとつながりました。自然素材を家事に用いるライフスタイルを提案する「笑むSTYLE」の川村康子さん、こだわりの珈琲と空間を提供したいと語る「ダモコーヒーハウス」の坂本翔吾さんなど、個性豊かな方々がいっぱい。こうした皆さんが増えると、仙台の楽しさもさらにアップするはずです。

起業活動が盛んな政令指定都市は福岡市。平成21年の調査では、福岡市の開業率が4・11%で1位。この時、仙台市は3・56%で4位でした。平成24年には、復興需要等が開業率を押し上げ、仙台市は1位になりました。だが、昨年度は2位。国の創業支援策の充実等により全国的に開業率は上昇し、仙台市も9・91%と率を伸ばしたものの、福岡市に一步及びませんでした。さあ、もう一度気合いを入れて、追いつき追い越せ！1月には、起業支援の催しを集中的に実施します。名付けて「仙台起業家週間」。1月22日から31日の間、アシスタ等で相談会などを行うほか、24日には川内萩ホールで、起業家応援イベント「SEND AI for Startups!」も。カタルフレンドシップ基金による「INTELLAQ東北イノベーションセンター」も期間中に開所の予定です。皆さんも真新しい東西線に乗って、熱いチャレンジ精神に触れてみませんか。

引していく大きな力を発揮することを期待しています」とあいさつ。5時35分、たくさんご利用客と市民の期待を寄せ、記念すべき一番列車が発しました。

沿線各地では、市民や町内会、企業、商店街などによるさまざまな催しが行われるなど、市内は祝賀ムードに沸きました。また、震災による津波で大きな被害を受け、復興公営住宅や防災集団移転先の宅地など新しいまちづくりが進む荒井地区では、12月12日・13日にまち開きイベントが行われ、会場は出店やステージイベント、スポーツ教室などで大変な賑わいをみせていました。(32ページに開業イベント特集)

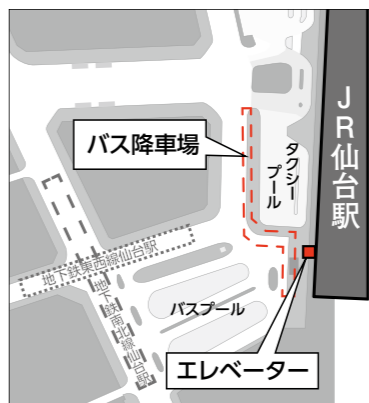
市政トピックス

JR仙台駅西口にエレベーターとバス降車場が完成

仙台駅西口駅前広場再整備事業の一環として、市とJR東日本が共同で整備を進めてきた仙台駅西口のエレベーターが完成しました。これは、地下鉄東西線仙台駅の改札が接続する仙台駅西口中央地下歩道(地下1階)、タクシー乗降場がある地上(1階)、ペDESTリアンデッキ(2階)、JR仙台駅の新幹線改札(3階)を結ぶもので、仙台駅を利用する方の移動



▲新たに設置されたエレベーター(右)とバス降車場(正面)



がよりスムーズになりました。また、仙台駅のタクシープール前には新たに路線バスの降車場を設置。これまで仙台駅前終着のバスの降車場所は青葉通などでしたが、今回の降車場の設置により、仙台駅での乗り継ぎがさらに便利になりました。今後は、バスプールにバス乗降場を増設するなどの再整備を進めていきます。

市政トピックス

米国から仙台市にハナミズキが贈られました

日米友好の印として、米国からハナミズキの幼木60本が仙台市に贈呈されました。これは、日本から米国に桜を寄贈して100周年を迎えたことを記念し、その返礼として3千本のハナミズキが日本に寄贈される企画「友好の木ーハナミズキニアチーブ」の一環として行われたもの。



11月26日、八木山動物公園で贈呈式があり、在札幌米国総領事館のハービー・ビーズリー領事から奥山市長に目録が手渡されました。



八木山動物公園に植樹されたハナミズキ

市政トピックス

第3回国連防災世界会議・最後の実行委員会を開催

昨年3月14日から18日に開催された「第3回国連防災世界会議」の第4回実行委員会が11月4日に行われ、開催結果などが報告されました。

新たな国際的な防災の取組指針である「仙台防災枠組」が採択された本体会議には185カ国から6500人以上、パブリックフォーラムには延べ約15万6千人が参加。会議開催費用や宿泊などにより、少なくとも20億円程度の経済波及効果があったと推定されます。また、ホテルやタクシーなどでの英語対応や、宿泊場所の確保など、今後に向けての課題もまとめられました。

奥山市長は「仙台」の名を冠した防災枠組や宣言が採択され、防災・減災に向けて引き続きリーダーシップを取っていく責務を痛感している。ここで得られた成果や課題を、『G7財務大臣・中央銀行総裁会議』など今後行われる大規模な会議に受け継いでいきたい」とあいさつしました。